

実施概要

日 時：令和7年10月2日（木）9：10～12：20
場 所：富山短期大学
主 催：北陸信越運輸局
対象者：富山短期大学幼児教育学科生 55名

富山短期大学幼児教育学科の学生を対象にバリアフリー教室を開催しました。初めに「心のバリアフリー」「バリアフリー法・障害者差別解消法」に関する座学を実施しました。その後2つのグループに分かれ、高齢者疑似体験や、車椅子体験などを実施しました。

障害の有無にかかわらず、お互いが支え合い、誰もが安心して生活できることの大切さを学びました。

高齢者疑似体験



車椅子体験（ノンステップバス）



車椅子体験（福祉タクシー・UDタクシー）



食堂の様子



座学の様子

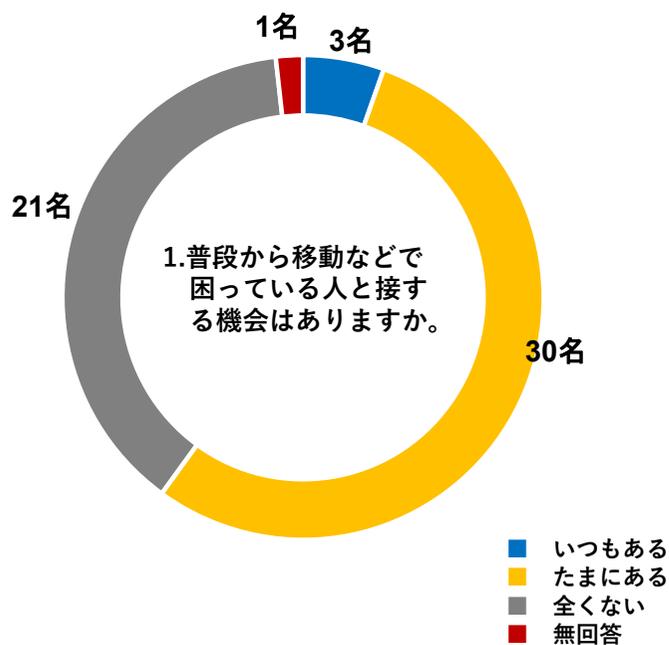
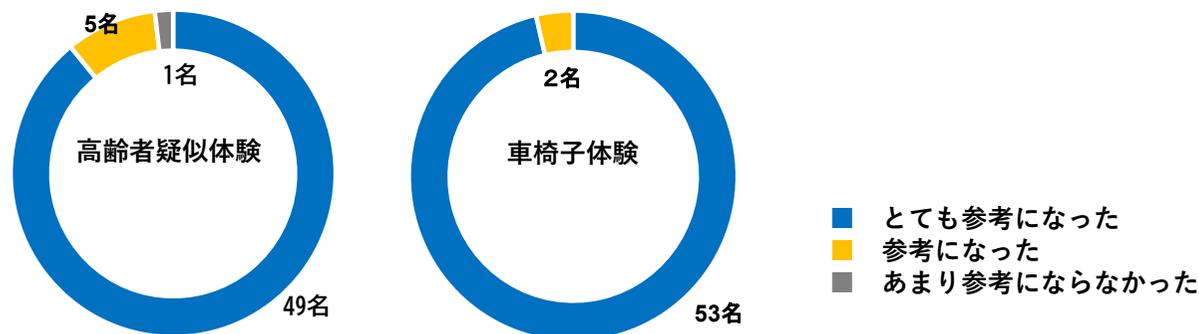
（心のバリアフリー・バリアフリー法・障害者差別解消法について）



バリアフリーに関するアンケートの実施

バリアフリー教室終了後、参加者を対象にバリアフリー体験の感想や「心のバリアフリー」に関するアンケートを実施しました。（n = 55）

2. バリアフリー体験を通じて、普段の生活に活かさせようですか。



～参加者の声～

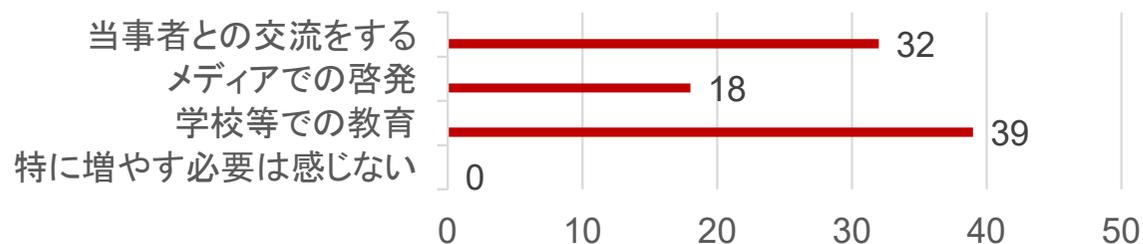
車椅子体験

- ・スロープの乗降の際には、言葉で予告してから動くことが大切であると分かった。
- ・自分が乗る側になると後ろ向きの時などかけ声がある時とない時の怖さが違うと思った。
- ・乗る側と押す側も怖いという気持ちがある。・バリアフリーがある大切さを学べた。
- ・高い所に手が届かず不便だった。
- ・乗っている人は怖いので、介助者を信頼していないと安心して乗ることができない。
- ・周りのものや人を見ながら移動するのが大変だった。・介助者の体力が必要だった。
- ・車椅子ユーザーに出会った時には優先したいと思った。

高齢者疑似体験

- ・体が重たいだけでなく、視界も見えづらくなったり音が聞こえなくなったり様々な衰えがあるのだと思った。・年をとるのが怖くなった。・健康でいたい！！
- ・アルバイト先で高齢者の方と関わることが多いため声を大きく話すなど工夫したい。
- ・体が思うように動かず1人で歩くのが大変だった。・一人だと心細いと思った。
- ・腕や足が曲げずらいだけで動くことがとても難しくなると感じた。
- ・視覚がオレンジ・黒が違う色に見えた。視界が違うことに驚きを感じた。
- ・移動するのがとても疲れた。・階段を下がる時不便だった。
- ・一つ一つの動作に時間がかかると思った。・同系色の色が見にくかった。

3. 「心のバリアフリー」増やすためには？（複数回答可）



「心のバリアフリー」を实践できる人を増やすためには？ （自由記述）

- ・なるべく偏見を持たない。知識をつける。
- ・それぞれの気持ちを理解し相手の立場に立って考える。
- ・体験で自分が困ったことを参考にする。
- ・点字ブロックを妨げないようにする。
- ・障害について理解をし受け入れる。